怒涛
題字
近藤禄郎氏

創立百十周年
特集号

柏中柏高同窓会新聞
発行代表者
土田新吾
印刷所
㈱柏崎インサツ

柏崎高等学校百十周年記念事業

●募金趣意書

柏崎高校は明治三十三年に開校され来年度創立百十周年を迎える県下屈指の伝統校です。十年前新潟県で初めて普通科の中でコース制（普通コースと探究（自然・人文）コース）を取り入れ、一昨年度探究コースを発展的に解消して「普通科理数コース」を設置しました。そして昨年度は文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）の指定を受けました。本校は輝かしい伝統を継承しながら常に時代を先取りしたシステムを取り入れ、「自ら変革する」をモットーとする高等学校です。

「大学受験は団体戦」の合い言葉のもと、授業第一主義に徹し学習合宿など取り入れ進路希望達成に向けて励んでいます。同時に部活動や学校行事もたいへん活発です。運動部では野球部が平成十五年に甲子園に出場したのをはじめ、これまでに陸上競技・水球・ハンドボール等毎年のようにインターハイや国体に出場しています。過去にスポーツ年間最優秀校にも表彰されました。文化部も全国高校総合文化祭に出場した美術部・書道部をはじめ英語部、演劇部、吹奏楽などが高いレベルで活躍しています。

柏崎高校の目指すところは知徳体及び知情意のバランスのとれた全人教育です。

これまで地域をはじめ、全国に有為の人材を送り出してきた母校のさらなる発展を祈念し同窓会・奨学会・ＰＴＡ・学校が一体となり記念事業実行委員会を結成し右記の記念事業を計画いたしました。

二度の大地震による痛手も癒えぬ中、長期化する大不況下経済事情の極めて厳しい折でありますが、日頃から柏崎高校の発展に深いご理解とご協力をいただいております皆様方のご芳志を賜りたく、ここにお願い申し上げる次第であります。

なにとぞ、重要な本事業の主旨にご賛同いただきまして、格別のご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成二十二年三月一日

創立百十周年記念事業実行委員会

委員長（同窓会長）　土田　新吾
募金委員長　石黒　信行
副委員長（奨学会長）　相澤　陽一
副委員長（ＰＴＡ会長）　青木　健
副委員長（校長）　浅野　隆
顧問（同窓会東京支部長）　近藤　健彦
顧問（同窓会関西支部長）　村田　仙二
顧問（同窓会新潟支部長）　室賀美津雄

『我等が意気をここに見よ』

実行委員長　土田新吾

はやいもので今年は創立百十周年を迎えます。総力を結集した百周年記念式典の日から数えてあと半年で丸十年です。同窓生の皆様や新旧の教職員、関係各位のご尽力で百周年記念事業は大きな成果をあげました。その後の十年間の我校の文武における活躍はその恩恵をおおいにこうむっております。この十年、実にいろいろなことがありました。はじめての甲子園出場、国公立大学合格者数百名突破。二度の大地震。スーパーサイエンスハイスクール指定校に認定など悲喜こもごもでした。そして今は百年に一度とさえ揶揄される大不況。国もまちも人々も大ピンチの時です。しかしこういう時こそ学び舎の充実が大切です。小林虎三郎の米百俵の故事にならうまでもなく我等の母校を物心両面から熱く支援したいものです。正に『我等が意気をここに見よ』です。皆様のご協力、ご支援心よりお願い申し上げます。

記念事業

――魅力ある学校づくり推進のために――

1　学校の教育活動への助成

■特色ある学校作りへの助成
- 骨太の人材を輩出するための進学ランクアッププラン
- 国際人育成のための姉妹校締結プラン（海外研修ホームスティ助成）
- クラブ活動育成のための外部講師招請プラン

■オンリーワンよりナンバーワンスクールの取り組みへの助成
- ＳＳＨ継承発展プログラム
- 医療系への進路指導充実プログラム
- 柏中・柏高同窓生による啓発講演会の開催

■その他（柏高資料室の充実など）

2　平成22年11月６日（土）

○柏崎高等学校・大体育館にて

■記念式典（９時45分開会）

■記念講演会（10時45分開演）
- 講師　宮脇　昭（横浜国立大学名誉教授・国際植生学会名誉会員）

演題（仮題）「明日のために、生物社会の掟に沿って」
―― 柏崎高校から世界へ ――

○柏崎市産業文化会館・大ホールにて

■記念祝賀会（13時00分開会）：会費5,000円
- 出席を希望される方は、各卒業期幹事代表の方より「前売り券」をお求めください。
- なお「当日券」も販売しております。

3　記念誌「回顧百十周年」の刊行

- １口以上ご寄付いただいた方には贈呈いたします。
- 購入だけを希望される方には、１部2,000円（送料込み）でお送りいたします。

4　「柏中・柏高同窓会員名簿」の刊行（既刊）

※「記念式典」や「記念講演会」に出席を希望される方、または『記念誌「回顧百十周年」』の購入を希望される方は、〈官製ハガキ〉にて次の宛先にお申し込みください。

〒945－0065　柏崎市学校町４番１号
柏崎高等学校創立百十周年記念事業　実行委員会 事務局

募金要項

1　**目標額**　2,000万円
2　**募金金額**　１口　5,000円（なるべく複数口でお願いいたします。）
3　**納金方法**　後ほどお手元にお届けする「払込用紙」に必要事項を記入のうえ、最寄りの「郵便局」または「コンビニエンスストア」にて、お振り込みくださいますようお願いいたします。
4　**募金範囲**　本校同窓生・在校生保護者および本会の趣旨に賛同いただける個人・法人です。なお、募金地域は全国で行います。
5　**期　間**　平成22年４月１日（木）から平成23年３月31日（木）（予定）まで

喫緊の課題と中長期的課題と

校長　浅野　隆

本校の百周年記念誌で「文武両道への決意　平均六十五点が資格」という本校第五代林栄太郎校長の記事を拝読した。『……大正六年十一月、第五代校長・林栄太郎を迎えた。林校長は「一に勉学、二に質素、三に剛健」をかかげ「英数優劣組」の編成を急務とするなど、進学に力をそそいだ。校長は着任の翌年、大正七年新学期早々の四月十日、「運動部選手は学科平均六十五点以上にして主要学科六十点以上の者たるべきこととす」を決めた。勉学第一たるべき運動部選手もまた同様のことであるとし、点数を示してこれを選手資格の第一においた点に大いなる決意のほどがみられる。いわゆる「文武両道」への公式な方針である。林校長は、「余輩の観るところによると、近来の学生はどうも学問の研究に対する本気が足りない。一般に学業に対する誠実が欠けておるように思うが如何であろう。学業は少しでも油断をすれば退歩する。今日の学生の中には遊びがてらに学校へ出てくるものがある。これは全く学生の本領を忘れたものと言わねばならぬ」生徒への苦言と激励は、さらに「切磋琢磨」「反覆習熟」「講習討論」のすすめとなって続き、学術に優れ運動競技に達した学生が知・徳・体いずれにも優秀な〝選士〟であってほしいことを切望している。……』林校長はまた、生徒および教職員の校内生活万般に細かな配慮を示したのであった。……

文武両道なる思想について、多くの人が誤って伝えられた思想にとらわれている。最大の誤解は江戸時代に起こったのだそうで（養老孟司氏の著作による）文は四書五経など書物を読むこと、武は竹刀を持って殴り合いをすること、両方できるのがサムライだ、という誤解です。**本来は両方が分離せずひとつであるということです。「文」を極めるには「武」によって培われた健全な心と体が必要であり、「武」を極めるには「文」によって培われた論理的思考が欠かせないという意味であります。運動や、技術だけ磨いていたとしても上位を目指すことは出来ない。だから、勉強するならきちんと健康的な生活を送り、運動で上位を目指すなら頭も働かせなくてはならない。究極には自分自身がどう生きていくかということでもあり、何を極めるにしろ、どう進路を考えるにしても無駄なものはないということのようです。**

本校の喫緊の課題を整理しますと、

骨太の人材を育てるため、教師として授業力アップのことや、学校としての進路実現力、また校長としてと生徒への感化力・生徒のモチベーションアップに役立つ琴線に触れる話力などを如何にして高めるかがまずあります。次に、例えば部活動等に三年間励み続け苦学してW大学に入った生徒と、ただ普通にK大学に入った生徒とでは感動はどちらにあるかということの価値観共有、学校があたかも一つの生命体・有機体かのように躍動する姿を如何にして世間に目に見える形で示すかという宣伝力もあります。世の中の動きに呼応しつつ現状に甘んじることなく、世界で活躍する人材の育成のために学校のあり方について、足腰を鍛え直すことを含め何か方策はないかということの模索も。また『小説上杉鷹山』風にいえば、社会状況の変化で、学校に何がもとめられているのかを知り、そのニーズに応えるには、いまの教育目標や学校組織や教職員の意識がそれでいいのかどうかを反省し、その現状をどう改革していくかということになり、転法輪奏氏の『我が国の問題点は、政治でも経済でも長期的な戦略がみあたらない事だ。未来に対する洞察力も、座標軸も、哲学も欠いたままで、危機に面しているのに火事が消えない。最初から具体論に入るからまとまらない。』に尽きるかと思います。

例えば、x軸にはこの国の進むべき道・あるべき姿・国家像、y軸には我が国の中での生徒の自己実現の方策、z軸には先人の伝統・文化の継承などが考えられます。三次元座標軸を据えて「ひとつひとつの火事」を消していきたいものであります。

またfは、次のような多変数関数であります。学校の活力f＝f（x、y、・、・、・、教員の授業力、授業時数の確保）【授業時数の確保とは『琴線に触れるいい授業』を増やすという意味です。】

更に、本校の現状を踏まえつつ本校に求められる取組について述べますと、地区では進学校と目され、生徒は纏まっていて礼儀正しく元気もあり、挨拶がよく（この挨拶がいいというのは、伊達ではありません）、進学校にありがちな『それ』ている生徒も見かけない。そういうよい現状に文武両道をシステムとしてちゃんと両立できるよう更に整備しておいてやることと、欲張って年間最優秀スポーツ校表彰も受け、進路実績も内容がリッパだ、と世間から評価されることこそ本校のひとつの方向ではありますまいか、と思うが柏崎翔洋中等教育学校と本校とがどのように相見えていけばよいのかとも思う。この柏崎翔洋中等教育学校については侮れないどころか過小評価すると怪我をする位な危機感を持ってとらえているところであります。柏崎地区全体からみれば地域力のアップには違いないが。向こうは中学、高校の六年間の教育プログラムを設計できるため、高校受検を気にせずに基礎学力の向上を目指し、独自の体験学習も取り入れられる利点から六年間かけて鍛えに鍛えているわけで一筋縄ではいかない。本校にとってはここが踏ん張りどころで、堪えどころである、というサジェスチョンをいただき、どの組織もそうでしょうけれど、大きな難問を突きつけられているという認識であります。

新教育課程への移行前夜、翔洋のデビュー、などを考えると『本校の足腰は大丈夫』かという帰結になります。校風である文武両道とは何かという根元的な問いかけを念頭におくとき、スクラップ&ビルド、新しく学校をつくるつもりで、すべてのエンジン・システムの見直すいわば大規模改革から、例えばうまく文武両道を両立させている、スポーツの強い他県の進学校の視察などを含め小規模の改革までいろいろ考えられます。

が、もちろん足下が一番大切であり、授業第一主義に徹し、授業を通じて生徒の生活指導をし、授業を通じて文武両道の啓発をし、授業を校務の中心とする学校運営をおしすすめていく。具体的には、理数コースとSSHがうまく機能し普通コースにも波及効果があるようにし、生徒募集の工夫、柏崎翔洋中等教育学校を育てつつ、差別化をはかり、魅力ある学校づくりは魅力ある授業づくり、下手な授業は公害との認識で、県教委の「中学進学時に地元中学か、中高一貫校かの選択肢ができたため、生徒の目的意識を引き出せるようになった。今後、ほかの中学や高校と切磋琢磨していける」の方針を遵守し粛々と事業・学校運営をしてゆきたいと思います。

創立100周年記念事業の実施状況（累計）

（平成22年３月31日見込）

（金額：円）

区　分	執行額	摘　要
1　記念資料室の整備	7,702,331	
● 記念資料の保管・展示	5,819,349	
① 資料のＣＤ化	4,648,791	
「怒涛」「柏高新聞」「記念誌」「校歌」		記念誌等100セット　校歌1,000枚
② 陳列棚	912,833	資料展示用　２台
③ 資料整備費用	100,000	謝礼
④ 柏中旗(旧校旗)補修、校旗入れ	157,725	３旗（額入）、校旗トランク
● インターネット「柏高ホームページ維持・改良」	1,882,982	リニューアル、更新、維持管理
2　柏崎高校振興基金	38,539,837	
● 学力の向上	5,121,432	
① 理科実習用ノートパソコン	1,493,415	11台
② 液晶プロジェクター	1,332,450	１台
③ 図書館のコンピュータ化	1,904,647	管理ソフト、バーコード等
④ 補習用長机、進路指導室机等	390,920	長机14台、作業机２台・椅子
● 部活動の活性化	10,543,467	
① トレーニング機器	3,849,090	エアロバイク３台等
② ピッチングマシン	660,450	１台
③ 吹奏楽部楽器	4,083,500	ティンパニー、ロータリーチューバ、バリトンサックス、クラリネット等
④ 写真部カメラ	126,000	デジタル１眼用２機
⑤ 演劇部スポットライト	157,080	２台
⑥ 文芸部部誌保管棚	16,230	
⑦ グラウンド整地	1,651,117	グラウンド整地工事（残額を全て執行）
● 文化活動の振興	10,069,746	
生徒海外交流事業	10,069,746	オーストラリア研修９回目実施
● 教育環境整備	12,805,192	
① 補習時冷房設備費	5,953,500	電気工事費
② 教員自主研修助成事業	777,152	自主研修、先進校視察研修
③ 百周年モニュメント	3,393,175	
④ 校章、校名版	790,000	
⑤ クーラーレンタル代	774,480	職員室用
⑥ その他	1,116,885	大体舞台諸幕取替、樹木剪定
3　雑　費	91,592	事務用品、振込料等
合　計	46,333,760	

柏崎高校教育振興会 十年の歩み

感謝をこめて

柏崎高校教育振興会 会長
勝海 昭

創立百周年記念式典から早くも十年が過ぎようとしております。この間にも約二千四百余人の卒業生が巣立ち同窓会に入会しております。

記念事業は資料室の設置とともに、低迷を続けていた伝統校柏高を何とかしなければとの危機感から、『柏崎高校振興基金』の創設をいたしました。これには三つの柱を掲げました。

◎学力向上
（教育環境の充実）
◎部活動の活性化
◎文化活動の振興

同窓及び関係諸氏四千四名から七千七百参拾弐万四千百九拾一円の浄財を戴き記念式典、記念講演会、記念出版『回顧百年』、同窓会員名簿の発刊等に三千九百九拾万四百参拾一円支出しました。

残りの三千八百五拾三万九千八百三拾七円を『柏崎高校振興基金』に繰り入れ、管理を柏崎高校奨学会に委託して参りました。

創立百周年記念事業で設けたこの基金は今年三月三十一日をもって十年間の役割を終了致します。

二代目同窓会長近藤禄郎氏から、浄財は公正に厳しく管理して行くべきとのご助言を胆に命じての運用でした。諸事業について、平成十四年四月から赴任された白井校長と協議の連続でした。

柏高生には伝統校として他に無い資質が有り、指導しだいとの先生の高い評価でした。まず、国公立に七十名の合格者を、次は百名を目標に立てる。

このために夏休みを短縮して補習をするから、教室に冷房設備を要望したい。

県の見解は、補習授業のためであれば設置は許可するが、財源不足、何年先に順番が来るか不明との返答。

白井校長の構想は、千載一遇のものであり逃す事の出来ない見解であると決断しました。

教育環境の改善により夏休みは短縮され、補習授業は定着し、予備校で夏期講習を受講する生徒は皆無になり、効率的な補習、三年生の夏季勉強合宿等の定着、きめ細やかな進路指導等で着実に実力は身に着き、合格率も伸びて現在に至って居ります。

時を同じくして先生方から先進校への視察の要望も生まれました。

生徒に対する情熱の現れが年々高まり、達成率は全国六位に目覚しい躍進でした。

国公立百名の突破から、目標は難関校への挑戦が始まりました。

杉田先生提案のオーストラリアへの海外研修は、今年で九回目を迎え、参加総数百二十名を越え、大きな視野を持った人材育成にも貢献、大学進学後も再度留学する学生も出て、特色ある学校として柏高の目玉にもなりました。

伝統校には、多くの人材を輩出して来たと言う貴重な財産が有ります。

同窓の力をどのように母校の協力体制に組み入れるか、例えば講演会にも身近な同窓生の姿、生の声は後輩達の励みになり、限りない可能性を秘めた高校時代には、ちょっとした出会いや出来事、一言が将来の方向を決めるきっかけにもなり、何かを感じさせる機会を与えて来たことは、何時か自分にも母校の後輩達に役立つ事をしたいと思う生徒の声が聞こえています。

九十周年記念事業で完成した中庭には、東京芸術大学・原正樹名誉教授・原正樹先生制作の「突兀・柏刈三山」モニュメント、金沢工業大学・西村秀雄教授寄贈のニュートンの林檎の木が生徒達の飛躍を願って据えられ、校名版は平山征夫前知事からの揮毫を頂きました。

多くの同窓諸氏からのご支援により県下の名門校に復活出来たと思います。

生徒達の挨拶の良さは以前から評判でしたが、最近は自信と誇りに漲り、視線を合わせての挨拶に変わりました。先生方の教えの賜物と思います。

今年は、根ざし揺るがぬ柏崎高校を守るための支援事業が行われる節目の年、創立百十周年記念事業に絶大なご協力をお願い致します。

創立百周年記念事業の実施状況（十年間の累計）を掲載いたします。

長い間の御協力に対し心からお礼を申し上げます。

募金委員会より ご案内とお願い

募金委員長
石黒　信行

日ごろ母校発展のために、いろいろとご助力いただき誠にありがとうございます。改めて感謝申し上げます。

さて本年は、柏中・柏高創立百十周年にあたる年となり、その記念行事を行うべく、今年度の同窓会総会でも説明されましたように、各委員会を立ち上げその準備を行ってまいりました。

募金趣意書にあります、学校の教育活動への助成につきましては、学校からの要請もあり、今までのように施設などに対する助成ではなく、主にソフト面への助成を行うことといたしました。

つきましては、この多くのプランがより理想的に実現されますように、皆さま方の一層のご助力をお願い申し上げます。

現在、非常に厳しい経済状況であることは承知の上でのお願いでございますので、たいへん心苦しいところではありますが、ご助力のほど重ねてお願い申し上げます。

★　★　★

「柏中・柏高創立百十周年記念事業募金委員」については、次の表の方々にお願いいたしましたので、ご要望・ご不明な点などがございましたら、お尋ねください。なお、募金委員を選出していただけなかった卒業期につきましては、卒業期幹事代表のお名前（表中の*印の方）を載せさせていただきました。

柏中・柏高創立110周年記念事業募金委員（ただし、表中の＊印は卒業期幹事代表です。）

（2010/2/12現在）

	氏　名	電　話
委　員　長	土田　新吾	0257-24-7221
募金委員長	石黒　信行	0257-22-2652
募金委員長	青木　　健	0257-22-3311
募　金　委　員	山崎　高美	0257-23-2896
募　金　委　員	真貝　維義	0257-23-7932
募　金　委　員	高橋　節子	0257-24-7030
募　金　委　員	島岡　清孝	0257-22-4195

卒業期	氏　名	電　話
高１	柳　喜八郎	0257-23-8792
2	近藤　康信 髙橋　忠夫	0257-27-2143
3	矢川　悦郎 荻野　亮一	0257-24-2700 0257-22-5848
4	大谷　　昂 宮野　武男	0257-23-5488 0257-23-1285
5	桑山弥万治 青木　孝二	0257-24-3288 0257-32-9372
6	興口　　孝 神林　　繁	0257-24-2709 0257-23-9085
7	須田　弘宗	0257-21-9510
8	阿部　松夫 品田　純一	0257-23-8970 0257-22-5142
9	名塚　幸弘 青木　一実	0257-29-2277 0257-23-1568
10	阿部　文夫 庭山　正弘	0257-23-3869 0257-23-3690
11	阪本　哲夫 内山千恵子	0257-27-2176 0257-23-3281
12	小田　茂明 長井　　満	0257-24-4059 0257-23-2515
13	須田　律子 星野百合子	0257-21-9501 0257-23-8146
14	伊藤誉士勝	0257-22-4815
15	三井田　孝 今井　元紀	0257-23-3566 0257-22-4335
16	村田　孝夫 中村　勝彦	0257-23-3450 0257-24-6750
17	田中　敏彦 渡辺長二郎	0257-24-6872 0257-22-4479

卒業期	氏　名	電　話
18	片山　達雄 布川　元保	0257-23-9444 0257-22-2286
19	西倉　外史 酒井　　悟	0257-22-1270 0257-23-5764
20	本多満理子	0257-24-7856
21	髙橋　忠行 根立　　茂	0257-24-3256 0257-23-4591
22	遠藤　邦彦 大矢　金一	0257-23-2345 0257-24-3807
23	佐藤　敏彦 中村　一穂	0257-21-2005 0257-23-6084
24	柳　　清岳 海津　茂貴	0257-22-4836 0257-22-3979
25	白川　信彦 松原　正美	0257-24-8808 0257-22-7013
26	中村　逸郎 今井恵美子	0257-22-0768 0257-24-6272
27	金子　　智 桑原　　博	0257-21-4809 0257-35-2819
28	野俣　正一 会田　　宏	0257-22-2872 0257-24-5170
29	堀　　和昭 西巻　康之	0257-24-2646 0257-22-4736
30	中村　藤浩 箕輪　正仁	0257-22-4405 0257-24-9738
31	岡島　利親	0257-22-2232
＊32	桑原　浩文	0257-23-9791
＊33	櫻井　雅浩	0257-22-3908
34	関矢　博明 木村　克己	0257-29-2772 0257-25-3787
35	井比　孝広 本間　和人	0257-22-5806 0257-23-4048
＊36	須田　孝之	0257-23-4548
37	米山　浩行 渡辺　孝丸	090-5527-7823 090-2997-2041
＊38	原　　剛	0257-23-3602
＊39	五十嵐真一	0257-23-9517
40	藤田　義栄	0257-35-7785
41	大橋　哲也 宮嶋田由美	0257-24-9742 0257-32-2115

卒業期	氏　名	電　話
＊42	中村　剛	0257-24-6738
43	五十嵐大輔 泉　　敬	0257-25-3232 0257-25-3019
44	広川　功一 早川　安洋	0257-48-3367 0257-20-4155
＊45	布施　豊	0257-24-1282
＊46	上村　友和	0257-24-4010
＊47	小林　拓志	0257-45-2577
＊48	廣田　万博	0257-26-2622
＊49	安澤　鉄也	0257-45-2552
＊50	三輪　圭介	0258-78-3086
＊51	白砂　元紀	025-536-3402
＊52	佐藤　淳	0257-24-5812
＊53	浅野　雄一	0257-35-2422
＊54	今井　敏	0257-24-5236
＊55	二ノ宮正行	0257-24-2275
56	尾崎　尚	090-5317-7830
＊57	佐川　圭吾	0257-32-1273
58	須田　和浩 寺沢　和喜	080-5037-9492 080-1343-3421
59	田村　貴俊 村山　成仁	080-5486-3598 090-4399-4883
＊60	相澤　美紅	0257-22-4874
61	田村　　修 串田　智弘	080-1226-6971 080-5863-1713

式典委員会

委員長　吉田　弘

式典委員会で決定したことは次のとおりである。

◎記念式典
日時　平成二十二年十一月六日（土）
九時四十五分開会
場所　柏崎高校大体育館

◎記念講演
日時　同日　同所
十時四十五分開演
講師　宮脇　昭氏

◎申し込み
記念式典（記念講演会を含む）のみに出席を希望される方は官製葉書にて「記念式典出席」と明記して申し込む。氏名の上に第何回卒業生であるかも記載すること。

◎お願い
記念式典及び記念講演会の参加者は希望者全員としますが、必ず事前の申し込みが必要です。多くの同窓生が参加して下さいますよう学年幹事から声をかけて下されば幸いです。

記念誌委員会

百周年からの怒涛の十年

代表　根立俊樹

「回顧百十年」刊行

記念誌は、創立六十周年（一九六〇年＝昭和三十五年）以来、周年記念事業の一環として、十年ごとに刊行されてきました。

六冊めとなる今回は、百周年の直後であり、昨今の社会・経済情勢や編集期間などから、小規模なものにすることと、一口（五千円）以上の寄付をされた方全員に贈呈することが、実行委員会で決定されました。

当委員会では、その方針のもと、これまでの記念誌との継続性と、将来への資料性に配慮して、百周年以後の十年間を中心に、編集を開始したところで、構想の概略は次のとおりです。

●**名称**　「回顧百十年」
●**体裁**　B5判
本文約百六十ページ
巻頭にカラーグラビア
●**主な内容**
二世紀めの出発
百周年記念事業の継承、校内諸制度の変革
中越沖地震からの復興
最近十年史年表
一年分見開き二ページ、主な行事、教職員氏名、学年・男女別生徒数
生徒活動の記録
親友会（本部、文化・運動の各部・同好会）
特に野球部の「選抜」出場と、水球・ハンドボールの「ときめき国体」参加
諸団体の活動概況
同窓会（本部、東京・関西・新潟の各支部）、PTA、奨学会
百十周年記念事業の推進
事業内容と経過
記念式典、祝賀会
●**刊行予定**
二〇一一年（平成二十三年）三月

個々の項目についての資料提供や原稿執筆のお願いはこれからですが、「選抜」と「国体」につきましては、監督・選手はもちろん、甲子園まで応援にでかけられた方や、国体会場で役員・ボランティアをされた方からも、写真やご感想をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

さらに、百周年の式典以後も記念事業の継続・具体化に尽力された方のご苦心談をぜひお伺いしたいものですし、この十年間に、在学・在職された方の、本校での思い出ばなしもお聞かせくだされば幸いです。

いずれにせよ、記念誌の完成には、怒涛をごらんの皆様からの全面的なご支援が必要となります。

本年七月末の総会のころをめどとして、資料・写真・原稿をお待ちしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

記念講演会委員会

「三、〇〇〇万本の木を植えた男」

宮脇　昭氏の記念講演

記念講演会委員会代表　相澤陽一

来る十一月六日（土）創立百十周年記念講演のため宮脇昭横浜国大名誉教授が来柏します。

宮脇さんは広島文理科大を卒業後西ドイツ国立植生図研究所で研鑽し、我が国に植物社会学を導入すると共に、「宮脇方式」によって緑の植生を回復して来た理論と実践が表裏一体の植物生態学者です。

全く新しい概念に基づく「宮脇方式」は近年林野庁によって国有林にも導入されるようになりましたが、これまで国内で千六百ヶ所以上、約四十ヶ国で延べ三千万以上の木を植えて来られたのです。

「宮脇方式」とは、その土地の「潜在自然植生」を生かした森づくりですが、その土地本来の樹種を選び、混植・密植によって緑の回復を図るというものです。つまり、ふるさとの森づくりです。そのキーワードである「潜在自然植生」の手掛りを与えてくれるのが「鎮守の森」であると言っておられます。

氏は東洋人で初の国際生態学会々長を務め、八十歳を越えた今なお地球環境戦略研究機関国際生態学センター長として世界を駆け巡って活躍しておられます。

一方、毎日出版文化賞を受賞した『植物と人間』、朝日賞に輝いた『日本植生誌』（全一〇巻）をはじめ、『緑回復の処方箋』『森はあなたが愛する人を守る』『木を植えよ』他多数の著者があります。

また、それらの業績によって、紫綬褒章、ブループラネット賞などを受賞しておられるのです。

理論と実践に裏づけられた宮脇さんの講演からは、情熱とエネルギーがひしひしと伝わり、感動することを請け合いです。また、植物や環境の内容にとどまらず、自然の摂理に基づく人間の生き方、教育の在り方などをも汲みとることができるでしょう。大勢の方々のご来場をお待ちしています。

祝賀会委員会

百十周年記念祝賀会の参加者を募集します。

委員長　青木　健

平成二十二年十一月六日記念式典の後、次の通り「祝賀会」を行います。

柏崎市駅前二丁目、柏崎産業文化会館三階大ホール、午後一時開会予定。チケット代は五千円です。

ご出席希望の方は、各期の幹事又は役員からお買い求め下さい。チケット郵送ご希望の方は、事務局宛ハガキでお申し込みいただいても結構です。（その場合代引き手数料の負担をお願いすることになります。）

若干、当日券も販売しますが、お料理等の都合もあり、必ず事前にお申し込みをお願い致します。（申し込みの際は、「祝賀会参加」と明記願います。）

なお、申し込み〆切は八月三十一日（必着）です。

編集後記

百周年式典が盛大に行われてから、十年が過ぎた。今年、百十周年を迎える。十一月六日（土）に記念式典が挙行される。十年の節目に同窓生が母校に集って顔を合わせる、生きている証と言えるかも知れない。

◆母校はこの十年めざましい活躍をしている。甲子園出場を始めとして、各部の活躍は「怒涛」でお知らせしているとおりである。

◆今年の新潟国体での本校の水球部の活躍は既に報道等でご存知の通りではあるが、顧問の本校教員島岡先生からその活躍の後を綴ってもらった。

◆SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定は、全国百余りの指定の中県内では、新潟南高校と柏崎高校の二校が選ばれた。本号にその活躍の一部を特集して載せた。

◆百周年の募金による、オーストラリア研修の十年の実績の中昨年の研修内容を特集として寄稿してもらった。

◆同窓生の母校支援の一環である「ようこそ先輩」と称してボランティアによる出張授業もしてもらった。大変好評で新聞でも取りあげられた。

◆同窓生による出版書籍の寄贈は、スチールの本箱二段重ねに満杯で、入りきれないで購入を考えている。同窓諸氏の各部門での活躍は、母校生徒の大いなる励みとなっている。

◆先日同窓会の百十周年記念名簿が発刊された。恒例のことではあるが、会員各位からご叱責の電話を頂く。住所が間違って記載してある。名前が間違っている。明らかにこちらの事務的なミスであり誠に申し訳ないと謝っている。しかし、一時的な感情をぶつけてこられる方もいる。代引きで勝手に送り付けるとはなにごとだ、どういうことなのか説明してほしい。よく聞いてみると、本人ではなく家族の方が申し込みを済ませていたことが判明した。後で謝りの電話を貰ってほっとした。

我々役員は、奉仕の精神でお手伝いしているわけだが、少しばかり気分を害する。ちょっとした気遣いがあったらギスギスすることもなくお手伝い出来るのだがと思っている。

運営費納入のお知らせ

本同窓会の会計年度は７月１日から翌年の６月30日までです。今年度も納付書を同封いたしましたのでよろしくお願いいたします。同窓会活動の円滑な運営のため、今後ともご協力をお願いいたします。

運営費納入状況（平成21年７月１日～平成22年２月３日）

卒業回（卒業年/月）	件数	納入額
（旧制中学校）		
19回（大正12/３）	1	2,000
20回（大正13/３）	0	0
21回（大正14/３）	0	0
22回（大正15/３）	1	2,000
23回（昭和２/３）	0	0
24回（昭和３/３）	0	0
25回（昭和４/３）	0	0
26回（昭和５/３）	0	0
27回（昭和６/３）	1	2,000
28回（昭和７/３）	3	6,000
29回（昭和８/３）	1	2,000
30回（昭和９/３）	2	4,000
31回（昭和10/３）	1	2,000
32回（昭和11/９）	1	2,000
33回（昭和12/３）	1	2,000
34回（昭和13/３）	2	4,000
35回（昭和14/３）	7	14,000
36回（昭和15/３）	8	16,000
37回（昭和16/３）	8	16,000
38回（昭和17/３）	7	14,000
39回（昭和18/３）	9	18,000
40回（昭和19/３）	17	34,000
41回（昭和20/３）	21	42,000
42回（昭和20/３）	27	54,000
43回（昭和21/３）	9	18,000
44回（昭和22/３）	23	46,000
45回（昭和23/３）	16	32,000
46回（昭和24/３）	2	4,000
（高等学校）		
１回（昭和24/３）	8	16,000
２回（昭和25/３）	24	48,000
３回（昭和26/３）	27	54,000
４回（昭和27/３）	48	96,000
５回（昭和28/３）	39	78,000
６回（昭和29/３）	49	100,000
７回（昭和30/３）	49	98,000
８回（昭和31/３）	44	88,000
９回（昭和32/３）	36	72,000
10回（昭和33/３）	48	96,000
11回（昭和34/３）	51	102,000
12回（昭和35/３）	42	84,000
13回（昭和36/３）	39	78,000
14回（昭和37/３）	43	86,000
15回（昭和38/３）	33	66,000
16回（昭和39/３）	45	90,000

卒業回（卒業年/月）	件数	納入額
17回（昭和40/３）	44	88,000
18回（昭和41/３）	56	112,000
19回（昭和42/３）	38	76,000
20回（昭和43/３）	51	102,000
21回（昭和44/３）	41	82,000
22回（昭和45/３）	40	80,000
23回（昭和46/３）	31	62,000
24回（昭和47/３）	27	54,000
25回（昭和48/３）	39	80,000
26回（昭和49/３）	16	34,000
27回（昭和50/３）	42	84,000
28回（昭和51/３）	33	66,000
29回（昭和52/３）	24	48,000
30回（昭和53/３）	32	64,000
31回（昭和54/３）	24	48,000
32回（昭和55/３）	12	24,000
33回（昭和56/３）	10	20,000
34回（昭和57/３）	10	20,000
35回（昭和58/３）	14	28,000
36回（昭和59/３）	16	32,000
37回（昭和60/３）	10	20,000
38回（昭和61/３）	18	38,000
39回（昭和62/３）	12	24,000
40回（昭和63/３）	6	12,000
41回（平成元/３）	14	28,000
42回（平成２/３）	9	18,000
43回（平成３/３）	17	34,000
44回（平成４/３）	6	12,000
45回（平成５/３）	10	20,000
46回（平成６/３）	9	18,000
47回（平成７/３）	14	28,000
48回（平成８/３）	8	16,000
49回（平成９/３）	5	10,000
50回（平成10/３）	7	14,000
51回（平成11/３）	7	14,000
52回（平成12/３）	2	4,000
53回（平成13/３）	6	12,000
54回（平成14/３）	7	14,000
55回（平成15/３）	10	20,000
56回（平成16/３）	8	16,000
57回（平成17/３）	9	18,000
58回（平成18/３）	11	22,000
59回（平成19/３）	21	42,000
60回（平成20/３）	24	48,000
61回（平成21/３）	53	106,000
計	1,696	3,400,000